

第6章

本事業に対する各国首脳等のメッセージ



1 日本

● 安倍晋三内閣総理大臣からのメッセージ

第43回「東南アジア青年の船」事業に参加される各国代表の皆さん、日本へようこそ。心から歓迎いたします。

私は、総理就任以降、皆さんのお国10か国を全て訪問しました。行く先々で温かくもてなしていただきました。ASEANは来年、設立50周年を迎えます。基本的価値を共有するパートナーとして、ASEANが地域の安定と繁栄を主導していくことを期待しています。

日本はASEANとの協力の中で多くを学び、「人を大切にする」対外協力を創り上げてきました。ASEAN各国の皆様一人一人に豊かになり、幸せになっていただきたい。そのために、共に考え、共に歩みたいと思います。

「東南アジア青年の船」事業は、そうした協力の一つです。1974年に始まって以来、日本と東南アジアの青年同

士の交流に、大きな役割を果たしてきました。これまで1万人を超える青年が参加し、各分野で活躍しています。

これからの航海において、皆さんは、異なる歴史・文化・宗教・価値観を持つ多くの仲間と出会うことでしょう。大いに語り合い、相手の国の素晴らしさを学び、また、自らの生まれた国への誇りを育みながら、深い絆を築いていただきたいと思います。

皆さんが、今後、アジア、そして世界の平和と発展のために貢献していくにあたり、船上で得た経験と、育んだ友情が、大きな力となることを願っています。

Bon Voyage !

平成28年10月31日

表敬訪問

内閣総理大臣官邸にて

2 ベトナム

● Ms. Nguyen Thi Thu ホーチミン市人民委員会副委員長からのメッセージ

ホーチミン市を代表し、若いエネルギーにあふれる美しいホーチミン市へ皆さんを歓迎します。ホーチミン市民、特に若者たちは、皆さんの訪問を心待ちにしておりました。

「東南アジア青年の船」事業は、私たちの市民、特に若者たちにとって、最も重要な国際交流事業の一つです。日本政府及びASEAN各国政府に対し、各国の青年の間の友情、平和、協力関係を継続的に培ってきたこと、そして団結を深めてきたことに感謝します。これらは全て、この地域と世界の持続可能な発展につながっています。ホーチミン市は、この重要な国際交流事業に対して、常に特別な関心を示し協力をしてまいりました。

「東南アジア青年の船」事業は、東南アジア各国と日本の上に築かれた友情と持続可能な協力関係を証明するものです。ベトナム、ASEAN、日本の関係性が発展するための最善の環境を作っており、我々の関係性は、政治、外交、経済、文化、科学、教育など全ての分野において、ますます重要なパートナーとなっています。私は、ベトナムと日本、そしてASEAN各国の青年がつながることで、更なる友情、平和とアジアの繁栄へ向けた協力関係、そして世界の持続可能な発展へ向かって、共

に歩み貢献していくことを強く信じています。

創造とおもてなしの街、そしてこれからも更に近代化及び文明化し、ますます友好的な社会となるホーチミン市において、皆さんが素晴らしい体験をされることを願っています。皆さんの訪問は、ベトナムの人々、特にホーチミン市民や若者たちにとって、海外からの友人たちに対して心からのおもてなしや友情を表現する素晴らしい機会となります。さらに、第43回「東南アジア青年の船」事業の参加青年318名は、市内14の地区のホストファミリー155家庭でのホームステイを通して、伝統的なベトナム家庭の文化を体験し、平和的で友好的なベトナムの生活を理解することでしょう。この4日間の訪問国活動の中で、皆さんがホーチミン市民に温かく迎え入れられ、色彩豊かな文化や友情・協力・統合の精神を感じていただければ幸いです。

若く素晴らしい皆さんがベトナムやホーチミン市の素晴らしさを認識され、ベトナムと海外との友情と協力関係がこれからも築かれていくことを信じています。

第43回「東南アジア青年の船」事業の成功を祈願します。

平成28年11月13日

表敬訪問

ホーチミン市人民委員会庁舎にて

3 タイ

● H.E. Admiral Narong Pipatanasaiタイ王国副首相からのメッセージ

タイ王国政府と国民を代表し、皆さんを今日ここにお迎えすることを大変光栄に思います。

青年は、国の発展のための極めて重要な資源であり希望です。国の繁栄は、青年の育成により左右されます。したがって、タイ王国政府は、あらゆる分野における青年育成を重要視してきました。

「東南アジア青年の船」事業では、ASEAN10か国と日本の、優秀で大いなる可能性にあふれた青年たちが、にっぽん丸の船上で約2か月を共にします。青年たちにとって、チームワークの精神の下にお互いに学びあい、共に活動し、各国の文化や価値観を分かち合う素晴らしい機会です。

このような事業が40年以上継続し、これまでに1万400名以上の青年が船上での共同生活を体験し、様々な異文化理解の活動や日本とASEAN各国でのホームステイなどを体験してきたことは、とても喜ばしいことです。「団結と思いやりのコミュニティ」の精神を持つ、相互理解と

親しい友情を、大いに促進してきたことでしょう。

正に皆さんにとって「人生で一度の体験」であり、この事業を最大限に活用してほしいと強く思います。この事業で出会った友人は一生の友であり将来のビジネスパートナーにも成り得るのです。ですから、このネットワークを、個人のためだけに活用するのではなく、自身の国や地域のためにも将来活用していくことが重要です。

この事業を継続して実施する日本政府に心からの感謝を表します。さらに、ASEAN各国政府の事業に対する積極的な協力にも感謝します。

最後に、第43回「東南アジア青年の船」事業の成功と、皆さんの体験が実り多いものとなるようお祈りいたします。タイでの滞在が素晴らしいものとなり、たくさんの良い思い出を作ることができますように。

皆さんの幸運をお祈りします。

平成28年11月18日

表敬訪問

モンティエンリバーサイドホテルにて

4 カンボジア

● H.E. Mr. Samdech Akka Moha Sena Padei Techo Hun Senカンボジア王国首相表敬訪問概要

H.E. Mr. Samdech Akka Moha Sena Padei Techo Hun Senカンボジア王国首相は、代表団の訪問を歓迎し、43年前に「東南アジア青年の船」事業を開始した日本とASEAN各国の首脳が未来に向けて描いた構想は、先見の明がある判断で称賛に値する、と述べた。この事業は、カンボジアそしてASEAN各国と日本の青年たちが協働し、相互理解と友情を促進する、という財産を作り上げてきた。

2002年以降、「東南アジア青年の船」事業参加青年がカンボジアを訪問する際には、毎回首相表敬を行っており、今回が7回目となる。さらに、2016年には、SSEAYPインターナショナル総会（SIGA）をカンボジア・シェムリアップで開催したことを誇りに思う、と首相は述べた。

ASEANと日本は戦略的なパートナーである。それぞれの違いもあるが、全てのASEAN加盟国は、経済協力、テロリズム対策、災害管理、気候変動の4つの重要分野において協力していくことに合意している。世界の安全保障のため、これら4つの分野において、各国の青年たちは大きな役割を担っている、と首相は述べた。

首相はさらに、内戦から和平、発展へとたどってきたカンボジアの苦難の歴史と、自らの生い立ちについて触れ、代表団の皆に対して、「決して諦めないように」とメッセージを送った。

平成28年11月19日
表敬訪問
首相府ピースパレスにて

5 シンガポール

● H.E. Ms. Grace Fu Hai Yien文化社会青年大臣からのメッセージ

第43回「東南アジア青年の船」事業の参加者の皆さんを心から歓迎いたします。また、シンガポール参加青年の皆さん、お帰りなさい。

前回、「東南アジア青年の船」事業がシンガポールを訪問したのは3年前でした。今年また、シンガポールに300名を超えるASEAN各国と日本の青年を迎えることができ大変光栄です。また、今年はASEAN設立49周年であるとともに、シンガポールと日本の外交関係樹立50周年の記念の年でもあります。「東南アジア青年の船」事業は、この地域の多様な青年たちを一同に会し、相互理解や強い友好関係を促進する事業です。

1974年の事業開始時から、この事業はASEAN各国と日本の青年の間の理解、団結及び進歩を促進する、大切な役割を果たしてきました。

第43回「東南アジア青年の船」参加青年の皆さんは、これまでの何千という既参加青年と同様に、自分の国を越えて友情を築く特別な機会を得ているのです。この仲間とともに、新しい冒険を経験し、思い出を分かち合い、新しい視点を得ることができます。

このような相互に尊敬しあう関係から生まれた友情は、現在の、人種、宗教、価値観、世界観などによってますます二分化する世界情勢の中では大変貴重なものです。この事業のような取組を通して私たちは、異なる考え方を共有することで、より良い未来につながる新しい可能性や解決策を見つけることができる、という価値を認識するのです。

多様性の力を活用するためには、まず、違いに寛容になること、そして、お互いの強みに感謝することが必要です。歴史的に見て、ASEAN各国間や、ASEAN各国と日本の関係性は、必ずしも問題が全くなかったわけではありません。しかし、問題から一歩離れ、お互いの違いの先に目をやれば、私たちの遺産や歴史の中に類似点を見つけることができるでしょう。例えば、平和と協調の中で異なる宗教を信じる自由を持つという共通の誇りを持っています。植民地時代の過去が、同質だった社会を文化の多様性のつぼへと変容させました。このように、問題が起きた時、私たちは共通の関心があることを思い出さなければなりません。だからこそ、「東南アジア青年の船」事業は重要な取組だといえるのです。地域間関係の固い基礎を築き、団結と寛容さの理想を強化し、対立の再発を防ぐことができます。ですから、この「東南アジア青年の船」事業において、お互いの体験に

耳を傾け学びあってください。このような関係性は、分裂を生み出す力に抗う世界を築くことを可能にします。シンガポール政府は、若者たちが地域のコミュニティのより良い未来を作り上げるための支援をしていきます。

シンガポール政府は、シンガポール国内及び近隣地域の協力と相互理解の精神を強化することに力を注いでいます。全国青年評議会は、シンガポール青年団 (Youth Corps Singapore) やシンガポール・ASEAN青年基金 (Singapore-ASEAN Youth Fund) など、青年たちが推進する、地域をより良いものとしていくためのプロジェクトを支援しています。全国青年評議会が実施する海外プログラムには、毎年、5千名を超える青年が参加しています。このような多くのプログラムに参加することで、青年たちは、インフラを整備したり、言語・保健衛生・生活技能を共有したりするようなプロジェクトを通して、ASEAN地域に還元できるような人材となっています。例えば、2か月前のことですが、シンガポール・ポリテクニクで検眼技術を学ぶ学生たちが、ベトナムのある地域において眼科のサービスを行いました。これは毎年行われている「視力の贈り物 (Gift of Sight)」と呼ばれるプロジェクトであり、過去にはラオス、ミャンマー、インドネシアでも行われました。

事業が進むにつれ、自分たちの地域や、ASEAN全体に対してどのように自分たちが貢献できるかという新しいアイデアが生まれてくるでしょう。若いリーダーである皆さんは、皆さんが住む地域を変える力を持っています。その力を良い力として皆さんの地域で使ってください。

「東南アジア青年の船」事業は、文化や社会的意識を培い、地域に青年のリーダーシップの種をまく非常に貴重な基礎を作ってきました。日本政府内閣府が毎年事業を実施していることに感謝します。私たちの地域の友情を深め、協力関係を強化する、更なる取組を期待しています。

本日、堤尚広在シンガポール日本国大使館臨時代理大使から、SSEAYPインターナショナル・シンガポールに対する日本の外務大臣表彰が送られます。この表彰は、シンガポール事後活動組織が、日本とASEAN地域においての友好関係を長年に渡り促進したことを示し称えるものです。このような機会に同席することができても光栄です。

また、ホームステイに御尽力いただいているホストファミリーにも心から感謝します。ホストファミリーの皆さんは、シンガポールの温かく輝かしい精神を、若い訪問者皆さんに示してください。この機会が、これから長く続いていく友情の始まりでありますように。

最後に、第43回「東南アジア青年の船」事業の参加者及び関係者の皆さんのシンガポール滞在が素晴らしいものとなるようお祈りいたします。楽しい思い出がたくさん作られることでしょう。そしてまた戻ってきてくださること願っています。次の寄港地にむけ出航する際に

は、旅の安全と事業の更なる成功を祈願しています。

平成28年11月26日
日・ASEANカーニバル
シンガポールEXPOにて

6 インドネシア

● Dr. Jonni Mardizal 青年スポーツ省青年育成担当副大臣からのメッセージ

インドネシア政府青年スポーツ省を代表し、第43回「東南アジア青年の船」事業に参加する11か国329名の若い親善大使の皆さんを歓迎でき光栄です。

この事業は、参加青年の人生を変えてしまうほどの体験をもたらすと聞いています。また、既参加青年には優れた人材が多く、本日自身の体験を話す予定のMr. A.M. Fachir外務副大臣もその一人です。

親愛なる参加青年の皆さん、世界は今だかつてないほど多くの困難に立ち向かっています。例えば、社会の格差拡大、行き過ぎた過激主義、広がる差別などです。皆さんが、私たちの世界をより良い方向へ変えてくれると信じています。

そのために、この事業を最大限に活用してください。新しいことを学び、新しい文化を理解し、ネットワークを広げ、皆さんがそれぞれの国で実現していくための素晴らしいひらめきを得てください。

ASEAN地域と日本には、3億人を超える青年が住んで

いますが、皆さんはその中で国を代表する名誉を得た選ばれた330名なのです。この事業を通して若い世代に投資するという、ASEAN各国と日本政府が共有する決意は、正しい判断であると信じます。

したがって、皆さんの次の課題は、私たちと世界に対し、皆さんが社会を変えることができると示してくれることです。良い変化に向けた行動は、どんな小さなことでも継続的に実施されれば、大きな変化を生みます。皆さんが一步一步進んでいけば、着実に前へ進んでいくのです。

最後に、インドネシア滞在中、また事業全体を通して、皆さんが価値のある学びと理解を得ることを祈願します。

皆さんのジャカルタ滞在が素晴らしいものとなりますように。皆さんに平安がもたらされますように。

平成28年12月2日

表敬訪問

タマンミニ・インドネシア・インダー (TMII)

ササナクリヤ・ホールにて